自己点検・評価報告書

日本語教育機関名：与野学院日本語学校

点検・評価実施日：2018/1/31

実　施　責　任　者：校長　谷　一郎

実施担当者名(役職)：教務主任　大知里　弘美、事務長代行　花田　涼

＜総論＞

昨年度に比べると大幅な改善が見られた。諸規程の整備も進み、体系的な学校運営にも目途がたった。しかし、一部にまだ不十分なところが残ることから、引き続き改善に努めていく予定である。

＜教育の理念・目標＞

理念は、教員会議、校内での掲示を通じて、十分に周知されている。

＜学校運営＞

諸規程の整備は進み、業務分掌、組織体制も明確化された。2018 年度は、それらを運用しながら問題点を抽出しつつ、さらに洗練させるつもりである。一方、中長期の運営計画は、未策定であり、年度予算計画についても入管行政の不安定さに振り回されてきた過去の経緯から、あまりはっきりした計画が策定できていない。2018 年度においては、2019 年度以降にしっかりと適用できる中期計画の策定を行う。

＜教育活動の計画、実施＞

理念、教育目標に基づいた教育体系の規定化を行ったことにより、よりシステマチックな教育活動が実施できるようになった。

＜成績判定と授業評価＞

成績の判定基準を見直し、また授業評価についても、体系化し規程の作成を行ったことにより、生徒へのフィードバック、教員の授業の質が向上したと思われる。

＜教育活動を担う教職員＞

校長や教務主任、専任教員等の職務内容、責任、採用基準、研修体制の規定化を行った。一方、教員の評価体制に比べ、職員の評価体制はあいまいであることから今後の課題とする。

＜学修成果＞

教育成果の判定は、適切に行われており、進路の把握も漏れなく行われている。無冠で卒業する生徒をなくすべく、本年度から学校を準会場として J-test を実施、生徒の意識向上を図ったとともに、結果にもつながった。

＜生徒支援＞

適応、生活、進路、在留等の支援は、概ね十分にできている。2017 年度は、危機管理体制の整備が課題であり、臨時休校規程や消防防災訓練規程の整備など、前進はしたものの、未だ不十分であるため、引き続き 2018 年度の課題とする。

＜進路に関する支援＞

進路指導は、体系的に行われている。

＜入国・在留に関する指導及び支援＞

入国・在留に関する指導は、丁寧に定期的に行われている。

＜教育環境＞

教育環境については、概ね問題はない。

＜入学者の募集と選考＞

学生募集は、概ね問題なく行われている。面接内容の標準化や募集代理人の選定方法等規定化を行い、新告示基準に対応した募集体制の整備を行った。2018 年度は、この新たな体制の定着を促進していく。標準化された面接シートについては、運用しながら、項目、様式の改善をすすめる。

＜財務＞

財務状況については、とりたてて問題はない。

＜法令遵守＞

コンプライアンスに関しては、法令遵守の推進体制を定めた。2018 年度においては、さらなる推進を行う予定である。

＜地域貢献・社会貢献＞

地域の交流行事には積極的に参加し、かつ地元の日本人を学校に招いて生徒との交流を深めてもらっている。同時に地域の日本語教育でも、役割を果たしている。